

銀杏学園 同窓会だより

平成2年度

ご挨拶



銀杏学園短期大学同窓会会長
梅橋 豊蔵

巷では忘年会だ、クリスマスだと一年中で最も気忙しい月となり、はや平成も三年目の新しい年を迎え様とする中、会員各位には益々ご健勝でご活躍のことと拝察致します。同窓会本部関係者一同は、例年通り技術講習会と会員各位にお届けする同窓会便りの準備に取り組んでいるところですが、例年のことながら計画と実働が伴わない焦燥感と師走の気忙しいさが相まって、一層の慌しさを感じています。

本年度事業の一つでありました終身会費未納者への納入督促に関する件では、多くの会員のご賛同が得られましたことに感謝申し上げますと共に、未だ未納の方も多数おられますので、何卒事情ご賢察の上ご協力をお願い申し上げます。

今迄毎年開催して来ております技術講習会については、その開催形態、内容、更には開催そのものは是非についても、会員各位の意見が分れ長い間議論の的となってきました。今年には取敢えず別紙プログラムの通り従来の形式を少し変えて文化講演とパネルディスカッションという組み合わせで実施しますが、今後のことについては、前記した事柄も含め全

般的な立場から学部部を中心とした「技術講習会」のあり方検討委員会により検討して貰うこととなりました。そもそも、開催不要論まで出てきた最大の理由は、関係者が一生懸命準備する割には参加者が少ないことであり、決して私共準備に携わる者のサボタージュに端を発しているのではないかとご理解戴きたいと思ひます。参加者が少ない理由はいくつかあると思ひますが、本講習会が同窓生同士の絆を深める絶好の場であることに異論はないと思ひます。その殆どが同職業につき同窓生という特別な間柄であり、この繋がりや、特に後輩各位には有効に活用して戴きたい。また、私共の従事している仕事柄、常に勉強が必要なことも論をまたないでしょう。以上の様な意味からも出来るだけ続けていきたいと考えておりますので、会員各位の多数のご参加を期待してやみません。

同窓会の運営全般についても、是非会員諸兄の忌憚のないご意見をお聞かせ戴きたく、加えて積極的なバックアップを宜しくお願ひ致します。

末尾ながら、各位のご健勝を祈念致します。

煙草と私



銀杏学園短期大学
学長 上野直彦

煙草と付合つて六〇年近くなる。旧制高校に入って、急性中毒で目を廻したのが始である。大学に入ると、細菌教室で試験管洗を始めたので、感染防止の為禁煙したが、兵隊にとられて再び吸出した。煙草の害は判つていても、仲々止められないのが実状であらう。意を決して、高価なライターまで放出しても何時の間にか煙草屋の前に立っている。禁煙を試みる度に従前に増して吹かしている。

元来、丈夫な方でない私であるが、今年はいよいよ長い夏が続き、すっかり参つて了つた。食欲はないし、呼吸困難で眠れないし、脈は乱れに乱れている。とうとう病院のお世話になった。横目でみると心エコーの画面は、左心室からやとと血液を送出している。緊急治療のお陰で、日に二万以上も数えた不整脈も二千に納まった。どす黒かった皮膚にも血色が戻つた。食欲が出て、呼吸も楽になった。夏まけと思つていたが、私の不摂生から招いた心不全であった。

これを機会に、愛用のパイプとお別れすることにした。入院前後の体調は、地獄と天国の差である。入院中は本学出身の技師の方々に大変お世話になり、感謝致して居ります。同窓会の諸子も、身体を大切にして職務に励んで下さい。

銀杏学園短期大学

九州屈指の私立医療短大

深い教養と人間性に富む医療技術者を育成する短大

ぎん きょう



学長 医学博士
上野直彦

■衛生技術科(男女).....(3年制) 100名
(臨床検査技師育成)

○入試科目 ●数学Ⅰ・Ⅱ ●英語Ⅰ・Ⅱ ●理科Ⅰ、物理・化学・生物のうち1科目 面接、健康診断

○特 典 臨床検査技師国家試験受験資格取得

○就 職 医療機関・研究所など就職、卒業後も就職斡旋

■看護科(進学課程・男女)(2年制)40名
看護婦(士)育成

○入試科目 ●数学Ⅰ ●英語Ⅰ ●看護一般 ●面接、健康診断

○特 典 看護婦(士)国家試験受験資格取得

入試日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期日
衛生技術科	推 薦 (20名) 11月19日 11月30日	12月7日	12月13日	12月21日
	一 次 募 集 (80名) 1月7日 1月23日	2月1日	2月8日	2月15日
	二 次 募 集 (若干名) 3月11日 3月16日	3月22日	3月27日	4月3日
看護科	推 薦 (5名) 11月19日 11月30日	12月7日	12月13日	12月21日
	一 般 (35名) 1月7日 1月23日	2月1日	2月8日	2月15日

募集要項 〒1,000円(小為替又は切手) 学生部教務課

銀杏学園短期大学

〒860 熊本市清水町大窪819番地
電話 (096)344-7611代表

第18回臨床検査技術講習会の内容

《文化講演》

演題 『水と人間』

熊本の水を考える

講師 清水正元先生

(元九州東海大学農学部教授)

座長 梅橋豊蔵 同窓会会長

《講演要旨》

生物は30億年前に海水に似た水溶液の中で、自然発生的に合成された。そして人間が生物の発展と進化の最終段階にあらわれたのであった。

地球は水の惑星と言われ、地球上の生命は水にささえられている。すなわち総べてのものに水はふくまれ、人体の70〜80%が水分である。

人間は水がないと8〜10日で死ぬが、食物なしでも水さえあれば40日間は生られる。総量グロスで180ℓの水が体内内を出入りし、生体の10%の水分をうしなすと自家中毒をおこし、21%失うと死が始まる。

水は生命体の体温を安定化し、水の溶解力によって人間の代謝はスムーズにおこなわれる。また、水は地球の温度の恒常化をはかり地球の気候を安定化する。

水は人間の生活に深い関わりをもっている。生活維持用水に上水道の70%がつかわれている。内、飲食用20%、洗濯用17%、水洗便所用11%、手洗い・洗面用10%、風呂7%、掃除4%、散水・洗車1%である。次に農業や工業など人間の生産活動に水はかかせない。それで古代都市文明は河川の流域にうまれた。

ギリシャ哲学・キリスト教の思想が、つぎのようにヨーロッパ文明を産んだ。

『神は地球を創造し、動物、植物をつくり、人間を創造してすべての動物、即ち自然を支配する権利と理性を人間に与え、この人間中心的思想が農耕牧畜の文明を築いた。農耕文明は産業革命を経て、経済優先の近代工業文化を進展せしめた。そしていまやその物質文明が限界に達した。』

即ち、経済成長に伴う人口の急増と産業の振興とが、都市の乱開発をきたし、地下資源の乱開発、植生の破壊などの自然破壊を引き起こしてやまなかつた、すなわち砂漠化現象、異状気象、水質汚染などである。こうして、いまや人間の生き方自体が問直されるまでになったのである。すなわち、『人間は自然の主人 (master) ならず、世話役 (steward) である』との思想の転換である。自然はそれ自体として価値があり、存在の権利がある。それを守り世話する役が人間である。そう考えてはじめて自然と人間との調和が生まれ、人間も将来にむかって生き延びることが出来るのである。

以上の観点にたつて、熊本の水の危ない現状と対策についてのべたい。

《パネルディスカッション》

テーマ 『これからの臨床検査と臨床検査技師のあり方を考える』

〔パネリスト〕

(1) 原田 正純 先生

(熊本大学医学部遺伝研)

臨床検査技師の社会への責任について

(2) 松村 克己 先生

(国立熊本病院研究検査科科长)

臨床医から臨床検査技師へ望むもの

(3) 黒木 重享 技師

(医技専3期・県立宮崎病院)

検体検査を担う技師の立場から制度管理と多検査処理について

(4) 上田 和夫 技師

(医技専3期・熊本中央病院)

生体検査を担う技師の立場から患者さんへの接し方について

(5) 下津 高志 技師

(銀大1期・鹿児島市医師会病院)

形態検査を担う技師の立場から検診検査と医療検査について

(6) 特別発言 清水正元 先生

文化講演講師

医療を受ける側の立場から医療機関に望むこと

司会 岡崎公士朗 技師

(医技専3期・熊本大学医学部)

《企画意図》

医療の中で臨床検査のしめる役割が重要なものとなって久しいが、臨床検査技師の地位の向上につながっているとは言えないと思われまふ。

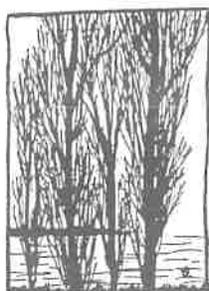
技術革新の中で医療技術の進歩は目まぐるしく、臨床検査に關してもその例外ではありません。

一方、医療費の膨大な増加が見込まれる中、医療保険制度の崩壊の危機から医療費の抑制の方向も強くみられます。

この様な情勢の中で、「思いやりの医療」や「患者さん中心の医療」が叫ばれていま

これに答え得る臨床検査と臨床検査技師はいかにあるべきかを、その倫理観や社会的責任についてじっくりと考える時期にあると思われまふ。

今回、各界の著名な先生方を交え同窓生の皆さんとこれらについてご討論をお願いしたいと企画しました。



同窓会の組織と活動について

事務局長 桑原英雄

同窓会役員は銀杏学園短期大学同窓会会則で、会長1名、副会長2名、理事若干名、評議員若干名、監事2名となっております。会長、副会長、理事は評議員の互選により、評議員及び監事は会員の中から総会で選出することになっております。現在、理事は学術部3名、企画部2名、庶務部3名、会計部2名及び事務局1名の計11名で、会の運営に關する事項を審議し実行しております。また、評議員は医技専卒14名と銀杏短大卒40名の計54名で、会長、副会長、理事を決定すると共に会長の諮問する事項を審議する機関であります。

さて、同窓会活動は技術講習会開催、同窓会だより発行、学窓(同窓生名簿)発行、会費の徴収、支部会開催及び援助などが主なものですが、これらの活動はあらかじめ各部で検討し理事会や評議員会に計り決定し、実行することになっております。実際に、技術講習会は学術部、同窓会だよりは企画部、学窓は庶務部、会計に關することは会計部がそれぞれ担当しております。

討委員会が編成されている状態です。これも一つの手法として評価されるべきものでありますが、別の見方をすれば既存の理事会及び評議員会が本来の機能を果たしていないということになります。低調な活動を打破する第一歩としてまず役員会への出席率を高めることだと思ひます。評議員会は上述のように同窓会活動の基盤ともいえる機関です。それにもかかわらず各期評議員の出席状況は、表のように決して芳しいものではありません。

確かにこれまでの評議員会は、学窓、同窓会だより、技術講習会案内等の発送に大半が費やされたのは事実です。理事会でこの点を十分反省し、評議員による発送業務を軽減すると共に、実質討議が出来るように致しました。そこで出席の悪い期は、今一度、評議員の重要性とその期の代表としての責任を再認識していただきたいと思ひます。平成2年度の総会で評議員の改選を行いますので、以上の主旨を十分ご理解の上、その期の代表として責任ある方を推薦して下さい。まずは、役員がそれぞれの責任を果たし、同窓会活動を確実に一歩一歩前進させたいものです。

評議員会出席状況

(平成2年11月19日現在)

卒業期	評議員数	昭.62(2)	昭.63(3)	平.(4)	平.(1)	出席率%
医1	1	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0
3	2	2	5	3	2	60
4	2	0	3	0	1	10
5	3	3	6	9	3	70
6	1	0	0	1	0	20
7	1	1	0	0	0	20
8	1	0	0	0	0	0
9	2	1	1	1	1	20
銀1	2	1	0	5	1	35
2	2	4	1	1	1	35
3	2	3	4	5	1	65
4	2	3	6	8	1	90
5	2	2	0	0	0	10
6	2	0	0	1	1	10
7	2	0	1	3	1	25
8	2	1	2	4	1	40
9	2	2	1	0	0	15
10	2	1	2	4	0	40
11	2	2	2	2	0	30
12	2	1	2	4	0	35
13	2	0	1	4	1	30
14	2	2	2	4	1	45
15	2	2	3	4	1	50
16	2	2	3	4	1	50
17	2	3	1	4	1	45
18	2	/	4	2	1	44
19	2	/	/	4	1	50
20	2	/	/	/	0	0
	54	36	49	77	23	33

年度の()は評議員会開催数、その下の数は延べ出席者数を表す

第18回臨床検査技術講習会の企画に当たって

学術部長 渡邊友宏

今回の技術講習会は案内のとおり平成3年1月19日(土)に熊本市上通・同仁堂4階大ホール、スタジオライブにて行うこととなりました。

技術講習会の内容はプログラムのとおり、文化講演は元九州東海大学農学部教授の清水正元先生に『水と人間』と題して、生存に欠くべからざる水を大自然の生態系の中でとらえ、如何にすれば阿蘇の伏流水である熊本地下水を、量、質ともに豊かで安全なまま次の世代へ受け継いで行けるのか、環境問題と共に『水と生命』をじっくりと考える講演をお願いしています。

講師の清水正元先生は昭和46年にはクエート国立科学研究所農業部長として砂漠緑化プロジェクト・リーダーとして活躍され、『砂漠に緑を』(中公新書)、『砂漠化する地球』(講談社ブルーバックス)、『澄んだ湖をつくる』(朝日選書)などの著書、研究論文を数多く発表されております。

日常の検査業務に水は絶対に必要なものですが、利用後の排水汚染の問題を考えると考え企画致しました。ご講演の抄録を頂いていきますので掲載していきます。文化講演としていますが、より学術的内容の濃い講演となると思います。

ところで、今回の技術講習会の企画に当たり、より多くの同窓生の方々のご意見をお聴きする為に、技術講習会のあり方検討委員会を設置しました。

この委員を評議員の中から募集しましたが、50名近くいる評議員の中で往復葉書にて返答を頂いた評議員は19名、その中で検討委員会を承諾されたのは7名(うち4名は理事)に過ぎませんでした。そこで、学術部より直接、電話或は封書にて依頼し、他に16名の検討委員を募りました。委員会のメンバーは次の通りです。

- 技術講習会のあり方検討委員会委員
承諾委員氏名(評議員)
- (医・3) 岡崎公士朗 (医・4) 浜武正博
 - (医・5) 力久哲二 (銀・4) 北野正文
 - (銀・4) 三村孝俊 (銀・8) 田崎隆二
 - (銀・15) 松本珠美

学術部よりお願いした委員

- (医・8) 村上徹治 (医・9) 江藤博三
- (銀・1) 上原正信 (銀・1) 上田逸子
- (銀・2) 宮崎洋一 (銀・3) 本田友登
- (銀・5) 山田しょう子 (銀・6) 寺本弘二
- (銀・7) 光永博子 (銀・9) 松岡幸則
- (銀・9) 成松隆一 (銀・10) 佐々木康雄
- (銀・10) 西浦明彦 (銀・11) 正木孝幸
- (銀・14) 室原安人 (銀・17) 待鳥泰治

第1回の技術講習会のあり方検討委員会は平成2年10月29日(月)午後6:30から大学会議室にて開催しました。この時、出席頂いた委員の方々はこの通りです。

- (医・3) 岡崎公士朗 (銀・4) 北野正文
- (銀・5) 山田しょう子 (銀・6) 寺本弘二
- (銀・7) 光永博子 (銀・9) 松岡幸則
- (銀・9) 成松隆一 (銀・15) 松本珠美

このメンバーに学術部より丸山と渡邊が加わり技術講習会のあり方を検討致しました。検討内容は、

(1)今年度の技術講習会について

期日 平成3年1月19日
会場 スタジオライブ

- ①文化講演の内容・演者の選定について
 - ②学術・技術講習の内容・形式について
 - ③その他、会員の出席増加を計る方策について
 - ④次年度からの技術講習会について
 - ①日時、期間について
 - ②会場について
 - ③文化講演について
 - ④学術・技術講習の内容・形式について
 - ⑤その他
- について、活発な討議がなされました。まとめますと、文化講演としては次のような案が出ました。
- (1)水問題 清水正元氏
 - (2)教育関係 安永フキ子氏
 - (3)芸術・美術関係 阿蘇品氏
 - (県立美術館学術部)今西コレクシオン
 - (4)建築家 葉祥明氏 アスペクタ、小国町

体育館など三角トラスト構造建築

(5)医療人としての接遇について 福田靖氏

(西日本銀行監査役)

(6)阿蘇菊池家の歴史、熊本県の城郭の歴史

熊本大学・松本教授

今回はこの案の中から、最もタイムリーな話題である水問題を取り上げ文化講演とすることに決定した訳です。これは銀大5期生の山田しょう子技師(江南病院勤務)から寄せられたご意見でした。

また、学術・技術講習の内容・形式については次のような案の中から、

(1)パネル・講演形式

講演内容のパネルを作製し、講演後ディスカッションし専門分野の技術、知識のノウハウを研修する。これを同時に3、4部門(例えば一般、血液、生理、輸血)について行う。

(2)パネルディスカッション形式

検査技師としてのあり方、倫理観などをテーマとする。(医師、看護、患者および技師自身の立場などからパネリストを選定する)

(3)CPC形式

各検査のデータの読み、考えられる病変を推定する解答者を指名しておく。

(4)討論会形式

事前に討論議題や質問事項のアンケートをとり、討論事項を整理し論者を選定する。

(5)スライドカンファレンス形式

一般、血液の形態検査の基礎あるいは基準化となるようなスライドと解答者を選定しカンファレンスを行い、解説を加える。今回は、(2)のパネルディスカッションとシテーマは『これからの臨床検査と臨床検査技師のあり方を考える』としました。

技術革新の中で医療技術の進歩は目まぐるしく、臨床検査に関してもその例外ではありません。

一方、医療費の膨大な増加が見込まれる中、医療保険制度の崩壊の危機から医療費の抑制の方向も強くみられます。

この様な情勢の中で、正確で迅速なデータを提供する使命をもつ臨床検査技師は、いかにあるべきかを各々の立場の先生や同窓

生の方々にご討論願ひ、臨床検査技師のありべき姿を浮き彫りにしてほしいと企画致しました。

フロアーからも同窓生の方々の活発なご意見、ご提言をお願い致します。

以上のような経過で、平成2年度の技術講習会の内容が決定致しましたが、技術講習会のあり方検討委員会を設置することで同窓生の方々の色々な貴重なご意見を聴くことができ、より良い卒後教育を実施して行く上で、それらを生かして行けるものと考えています。

次年度からの技術講習会については日時、期間、会場、文化講演、学術・技術講習などの内容・形式について、もう一度すべてを洗いなおして、それも講習会終了後、熱のさめないうちに検討して行きたいと計画しております。

しかし、同窓生の一人一人が、熱い気持ちで同窓会を支持し、育て、手づくりの卒後教育を実施し、併せて後輩の教育を考えなければ銀杏学園の発展はなく、また我々臨床検査技師の明日もありません。

この技術講習会の開催には、大学、後援会、それに化血研の後援があり、援助金を頂いていますが、これをより有効なものにするには、一人でも多くの同窓生の方々が講習会あるいはその企画に際し参加して下さることだと考えます。

皆様のご意見、ご希望あるいは企画案をどしどし学術部宛にお聞かせ頂きますようお願いいたします。

平成3年1月19日(土)は新年会あるいはクラス会として、この技術講習会で楽しくおあいできますことを期待しています。

連絡先

861-11 熊本県菊池郡西合志町須屋2659
国立療養所再春荘病院
TEL 096-242-1000
(314)

■銀大1期生・同期生会のお知らせ■

銀大1期生の同期生会を技術講習会に合わせ平成3年1月19日(土)同窓会懇親会終了後に行います。

銀大1期生はすでに卒業後20余年となり、各職場で中心的役割を演じ、社会的責任もますます重くなっています。

また、丁度長い人生の、マラソンで言えば折り返し地点にあたり、ここに至って、青春の熱き思い出を語り、自己の歴史を散策し、明日を見つめ直すことは非常に貴重なことと思われれます。

10数年ぶりに逢わず顔を想像し期待し、薄くなり白いものが目だってきた顔を掻きながら、1月19日(土)熊本市上通のスタジオライブにて15時から集いましょう。

詳しくは実行委員までご連絡ください

実行委員 藤岡洋介 国立再春荘病院 ☎096(242)1000
上原正信 熊本市医師会医療センター ☎096(372)6767
橋爪賢司 肥後臨床検査研究所 ☎096(343)2284

企画部より

企画部長 力久哲二

同窓会だよりの発刊も、とうとう例年通り年末になってしまい、又、内容も変わり映えのしないものとなってしまいました。企画部として会員の皆様には申し訳なく思っております。

さて、平成2年度の技術講習会が御案内の内容で開催されますが、今回は例年とは異なる形式(パネルディスカッション)で学術部より企画されました。多数の参加をお願いする次第です。企画部としては、今回の技術講習会の要約あるいは参加者の感想等を次回の同窓会だよりに掲載し、参加できなかった会員の皆様へ講習会の内容をお伝えしたいと考えております。現在、理事会、評議員会では今後の技術講習会のあり方について、検討されています。会員の皆様の声をできるだけ反映させたいと思っておりますので、同窓会への意見等をお願い致します。又同窓会だよりも原稿なくしては発刊できません。会員皆様からの寄稿をお待ちしております。